

震度6弱、6強、7とは

電気・ガス・水道などのライフラインはストップすることも予想されます。

- 震度6弱**
 - 立っていることが困難になる
 - 未固定の重い家具の多くが移動、転倒する
 - かなりの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損
- 震度6強**
 - はわないと動くことができない
 - 未固定の家具のほとんどが移動し、転倒する
 - 壁のタイルや窓ガラスが破損
- 震度7**
 - 揺れに翻弄され、飛ばされることもある
 - 未固定の家具は飛ぶこともある
 - 補強済みのブロック塀も破損するものがある



海溝型地震の被害状況

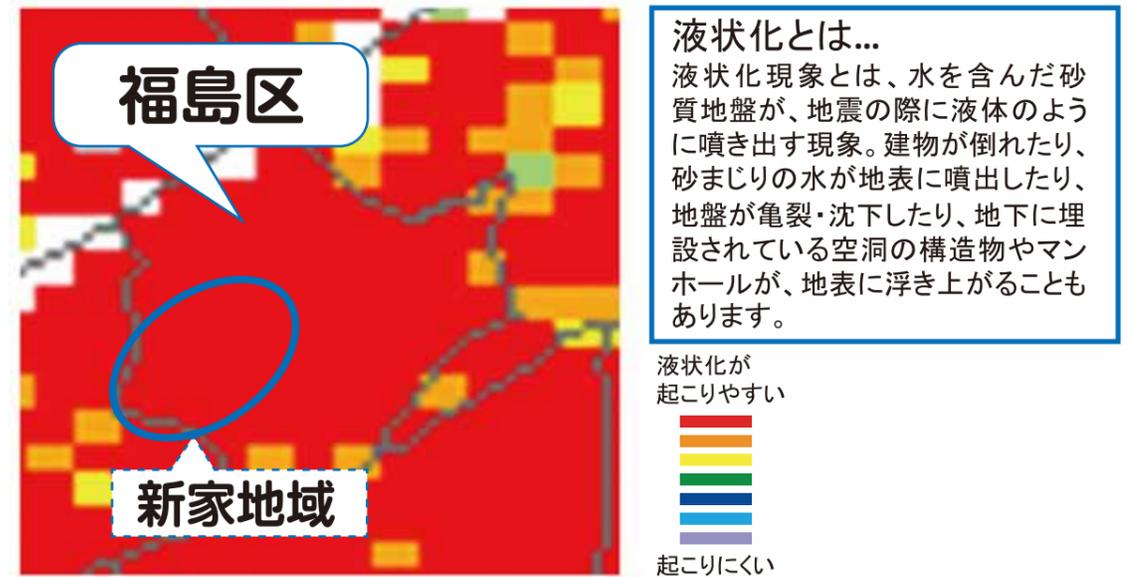
大きく長い揺れで津波がくる可能性がある。



直下型地震の被害状況

揺れている時間は短い、強く激しく揺れて高い建物でも大きく破損するものがある。

(5) 液状化可能性想定図



福島区では、全体的に液状化が起こりやすい地域となっています。液状化の被害が出ると亀裂や泥などで容易に通行ができず、避難路であっても機能しにくくなります。

(6) 津波被害・河川氾濫・内水氾濫での被害



- 淀川が氾濫した場合の被害……約5.0m(最大) 赤色ライン
[総雨量360mmの降雨(1年に起きる確率が1/1000程度の降雨を想定)]
- 南海トラフ巨大地震による津波被害……約3.0m(最大) 青色ライン
[マグニチュード9.1程度の地震が発生し、最大クラスの津波による浸水が起きた場合(防潮堤の沈下や防潮施設の開閉状況を考慮)(満潮時を想定)]
- ※福島区内においては、津波により最大3mまで浸水することが想定されています。
- 豪雨などによる内水氾濫の被害……約0.5m(最大) 黄色ライン
[総雨量567mm、時間最大雨量93mmの降雨(東海豪雨級の降雨)を想定]